

## 1. 実施報告: 社会教育主事講習

平成23年度は、四国四県の国立大学法人が持ち回りで担当している四国地区社会教育主事講習の開催年でした。社会教育主事とは、社会教育法において都道府県や市町村の教育委員会事務局に置くことになっている専門的教育職員(教育公務員特例法)です。本学では教育学部人間発達環境課程に社会教育主事コースがあり、本センターの担当教員が必修科目の多くを担っています。

実施期間は、平成23年7月21日(木)から8月12日(金)までの土曜日も含み、連日9:00~17:30というハードなものでした。今年度は四国四県から20名(内、香川13名)、岡山県から1名の受講者を得て、計21名での実施となりました。人数が少なかったため、受講者同士が顔見知りになるのにそう時間もかからず、とてもよい雰囲気講習が進んでいきました。

さて、近年の教育課題に、「新しい公共づくり」や「地域教育力の向上」などがあり、社会教育への期待が高まっています。なぜなら、学校教育および家庭教育以外の教育全般を社会教育が一手に引き受けているからです。成人になってからも、急激に変化する社会の中で豊かに生きるために、さまざまな学習が必要になります。PTAや子ども会育成会、婦人会、敬老会等の地域団体は社会教育関係団体として、学びつつ活動し、活動しつつ学んでいます。地域の中で行われている学習活動や地域活動を有機的に結びつけ、人々の豊かなつながりをつくり、新しい地域づくりへと進展させるために、社会教育主事の存在は欠かせないものとなっています。

当初は長いと感じていた23日間の講習でしたが、終わってみれば「あっという間だった」という受講者の感想がありました。前半は特に講義中心のプログラムとなっていて、慣れるまで大変だったようですが、これまでの業務を振り返り、まとめるいい機会でもあったようです。班別演習では受講者それぞれの思い

や経験をぶつけ合い、課題意識を深めることができました。講習外でも濃密な情報交換ができ、堅くて確かな人的ネットワークが形成されました。この財産は社会教育主事としての今後の仕事に大きく影響を与えることになるでしょう。

社会教育主事講習の計画や実施にあたっては、香川県教育委員会および県内市町の教育委員会・関係部署に多大なるご支援をいただきました。また、四国四県および岡山県の教育委員会にも同様にご理解とご協力をいただきました。長期間の講習となるため、充実した内容となるよう学内外の多方面の専門家のお力添えをいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

文責:清國祐二



## 2. 実施報告: 熟議 2012 in 香川大学

2012年3月3日(土)に「熟議 2012 in 香川大学」を、香川大学研究交流棟5階研究者交流スペースにおいて実施しました。メインテーマを「地域とともに歩む大学づくり～香川大学の人材育成機能への期待を問う～」と定め、サブテーマに①地域の高度な学びを支える大学となるように、②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように、③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように、④夢を語り、叶えられる大学となるように、を掲げました。



熟議への参加者は約90名、学外参観者が約20名、学内スタッフ20名の総勢130名が会場を埋めて、活気ある議論の場となりました。参加者は、高校生と高等学校教員、本学学生および教職員、文部科学省生涯学習政策課職員、香川県内の教育委員会事務局職員、高松市行政職員、企業人、地域の方など、多様な主体で構成されました。熟議が進むにつれて熱が入り、立ち上がって提言を練り上げる姿が印象的でした。

長尾省吾学長はもとより、共催者でもある文部科学省から合田隆史生涯学習政策局長と平林正吉生涯学習振興課長が出席し、熟議の様子を終始参観しました。10グループからそれぞれ提言が出され、それらを受けて長尾学長と平林課長が丁寧に講評するなど、会場は一体感あふれるものとなりました。

それでは、簡単にプログラムの紹介をします。

### 【オプション・プログラム:キャンパスウォーク】



キャンパスウォークは学生支援サークルMINtSの企画運営によるもので、高校生および高校教員を対象として、学内の主要な施設を案内しました。最後に学生食堂で昼食をとりながら、高校生からの素朴な質問に受け答えしていました。参加した高校教員から、「フォーマルな大学訪問もよいが、このようなインフォーマルな関わりができる機会があれば、高校生ももっと大学を身近に感じることができるのではないだろうか。」という感想をいただきました。

### 【熟議】

午後の熟議は上でも述べたように、濃密なものとなりました。その結果、次のような提言が出されました。「地域への情報発信強化に向けて県・市町と“交換広報”を行う」「ミスマッチ解消！四国八十八箇所中小企業巡り」「香大生と地域の協働による熟議の開催」「ボランティア・インターンシップ・催しのワンストップサービス『窓口くん』をHP上につくる」「学生自らが地域と大学とを結ぶコーディネーターとなる」「学生のチャレンジ！なんでも受付所を設置する」などが代表的なものです。短い言葉では臨場感が伝わらないのが残念です。それぞれに参加者の熱い思いが込められていました。



文責:清國祐二

### センター雑感

本編にありますとおり、当センターにとって、平成23年度はイベント・イヤーとなりました。通常の公開講座に加え、多くの方が事業にご参加下さいました。ありがとうございました。(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧下さい。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp